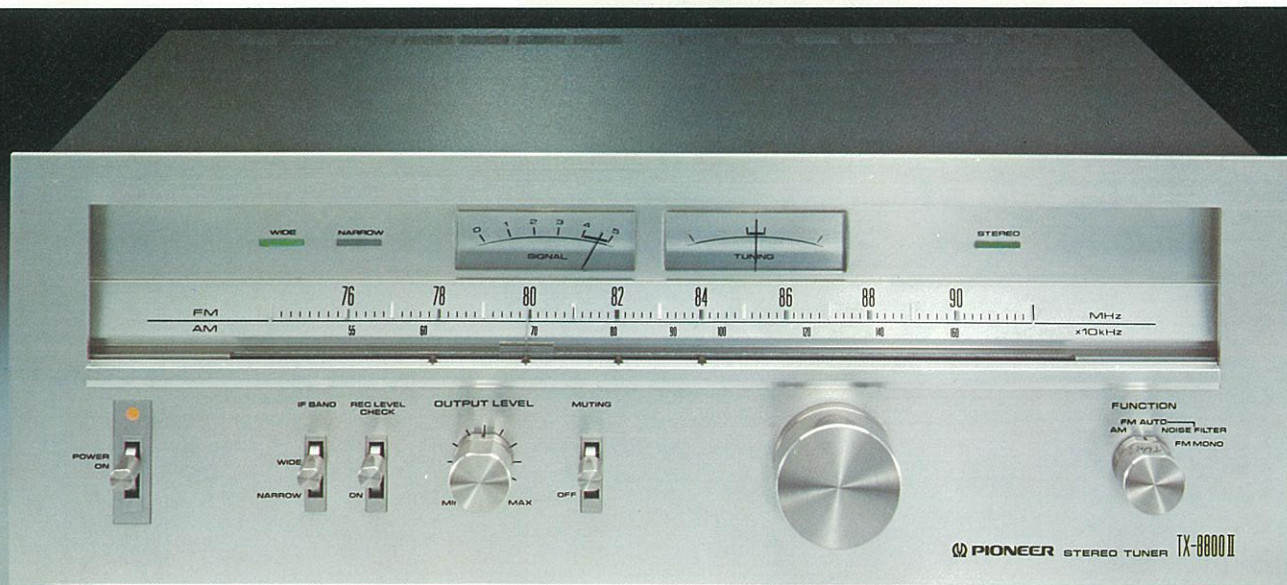


WIDE/NARROW IFバンド切換式
AM/FMステレオチューナー

TX-8800II

¥46,800

パイロット信号オートキャンセル回路、選択度2段切換え、さらにRECLレベルチェックスイッチも装備
新開発専用ICを生かして、受信性能と音質を向上。

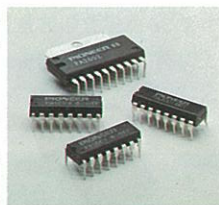


TX-8800IIは、高い受信性能と、低ひずみ率、高SN比、広帯域再生などすぐれた音質を両立させた新鋭機です。回路には新開発のパイオニア専用ICを要所に採用するほか、選択度2段切換えやパイロット信号オートキャンセラー回路など音質重視の設計。FM録音時に便利なRECLレベルチェック回路も内蔵しています。

高い受信性能とすぐれた音質の実現に、新開発のパイオニア専用ICが活躍。

TX-8800IIは高い受信性能を得るとともに、低ひずみ率、高SN比、広帯域再生など、すぐれた音質の実現に力をそそぎました。そのためパイオニアの高いエレクトロニクス技術で、新しいパイオ

ニア専用IC群を開発し回路の要所要所に採用しています。これまで特性上有利なことが分っていても容易に実現できなかった回路が、新開発のICで可能になり受信性能と音質を向上させました。



1.8 μ V(新IHF \cdot 10.3dBf)の高感度と高い妨害排除能力。4連バリコンとデュアルゲートMOS型FETで構成したFMフロントエンド。

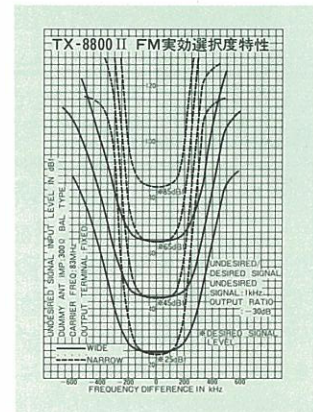
TX-8800IIのFMフロントエンドは、4連バリコンと雑音指数の低いデュアルゲートMOS型FETによる構成。これにより1.8 μ V(新IHF \cdot 10.3dBf)の高

感度と高い妨害排除能力をもち、かなり電波の弱い場所や雑音の多い場所でも、美しいFM受信が可能です。また、局部発振回路用バリコンのエアギャップを大きくとり、ダイヤルスケールの目盛り精度を向上させ、より精度の高いチューニングを可能にしています。

IF部はWIDE/NARROWの選択度2段切換えを採用。新開発ICでSN比向上とひずみの低減をはかっています。

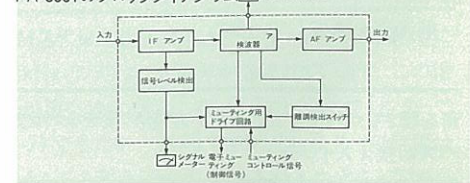
実効選択度特性は受信局に隣接する妨害波を排除する能力ですから、選択性能の面ではナローな特性が望まれます。しかしSN比やひずみ率など音質面では、選択度をワイドにした方が有利です。そ

ここでTX-8800IIでは選択度ワイド/ナロー2段切換えを採用し、受信条件に合わせてセレクトできます。しかもこのIF段では新開発のパイオニア専用IC(PA-3001)で、検波段を低雑音・低ひずみ化し検波効率の向上を実現。同調特性を高め



て多少の同調ずれでもひずみの増加をおさえています。ナローバンドは2素子セラミックフィルター4個で高い選択度(80dB)を得るとともに、この新開発ICにより音質の劣化を防いでいます。そしてワイドバンドは、2素子セラミックフィルターを1個にしてこのICの特性をより発揮させ、ステレオ時でSN比75dBひずみ率0.1%(1kHz)のすぐれた音質です。

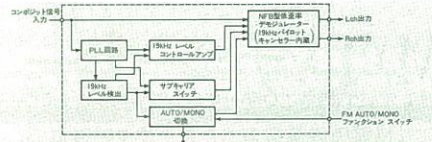
PA-3001のブロックダイアグラム(チャンネルチューナー)



MPX部には、広帯域再生を可能にするパイロット信号オートキャンセル回路内蔵の新開発ICを採用。

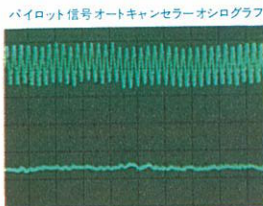
FMステレオ放送には、左右チャンネル分離用に19kHzのパイロット信号が含まれています。この信号が再生音に混入しないようローパスフィルターでカットするのが一般的ですが、フィルターの使用はどうしても再生音に影響をあたえやすく高域を

低下させます。



ステレオインジケータ-PA-1001のブロックダイアグラム

TX-8800 II では広帯域再生を実現するためフィルターを使わず、新開発のMPX・PLL用IC (PA-1001) によるパイロット信号オートキャンセル回路を採用。パイロット信号は自動的に打ち消されますからフィルターの影響による高域低下がなく、伸びのある再生音です。



パイロット信号オートキャンセル回路の動作を示すグラフ。上はキャンセル回路なしの場合、下はオートキャンセル回路で打ち消された場合。

オーディオ用アンプとミュート回路、そして電源部にも新開発ICが使われ、性能向上に活躍しています。

オーディオ用アンプとミュート回路は、新開発の専用IC (PA-1002) で構成されています。このオーディオ用アンプのディエンファシス回路には、誤差1%の抵抗や2%のコンデンサーなど厳選した素子を使用し、すぐれた周波数特性を得ています。局間雑音やスイッチ切換え時の雑音を低減するミュート回路は、IC内の応答の早いスイッチングにより従来ポップ音の除去に使われていた10数HzのローカットフィルターをTX-8800 II では8Hzにして、低域特性を伸ばしています。さらにTX-8800 II では、電源部にも新開発の専用IC (PA-2002) を採用し、信頼性の高い電源部を構成しています。

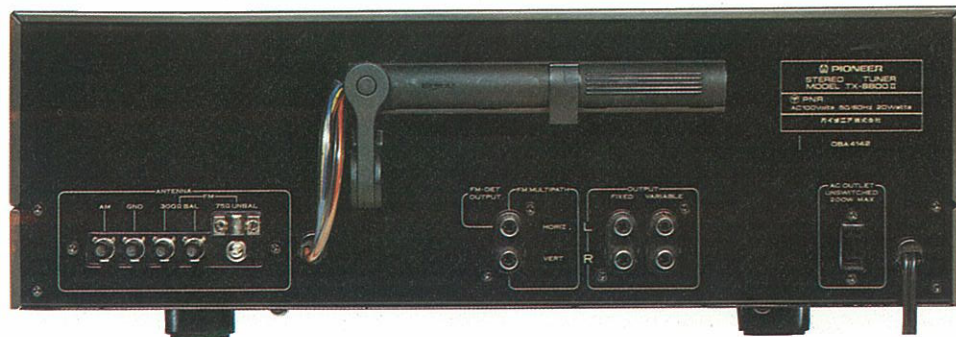
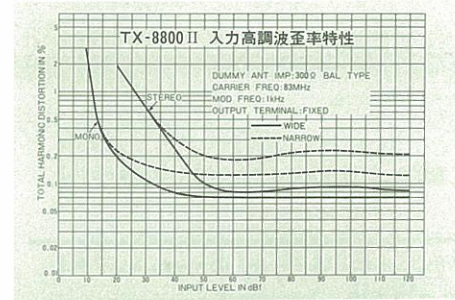
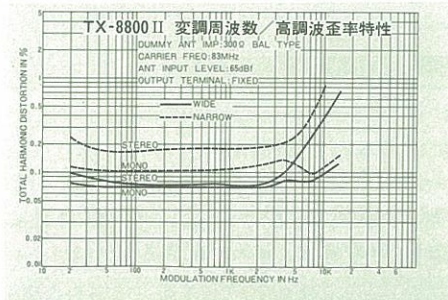
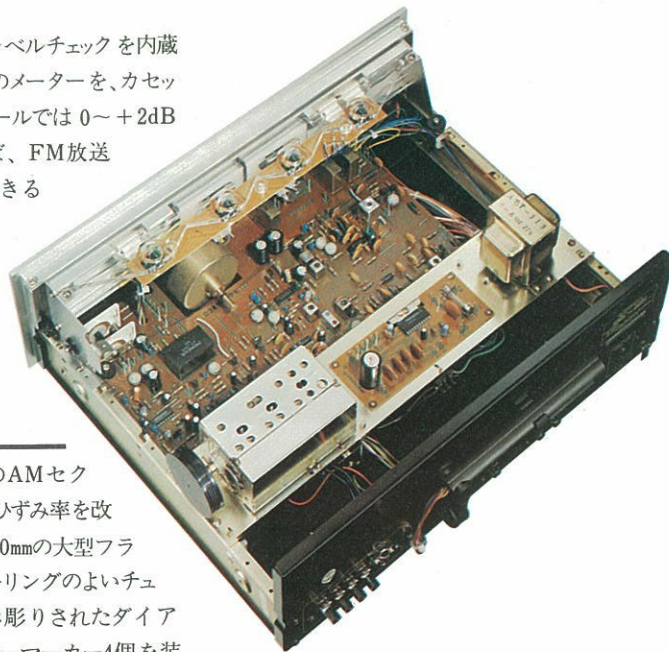
FM録音のとき威力を発揮する、RECレベルチェックスイッチを装備。

上手なFM録音にはテープデッキの正しい録音レベル設定が大切です。TX-8800 II は、FM50%変調時と同一レベルの440Hz信号音を、1.6秒間隔で出

力に送り出す、レコーディングレベルチェックを内蔵しています。この信号でデッキのメーターを、カセットでは-2~0dB、オープンリールでは0~+2dBあたりにレベルセットすれば、FM放送が高SN比、広帯域で録音できる便利なスイッチです。

音のよいAMセクション、フィーリングのよいチューニングメカ。そして付属機構も充実しています。

2連バリコンと高集積度ICのAMセクションは、低域の周波数特性やひずみ率を改善した音質重視の設計/直径60mmの大型フライホイールを使用した、フィーリングのよいチューニング機構/シャープに浮き彫りされたダイヤル面、下部にスライド式メモリーマーカー4個を装備/MPXノイズフィルター/固定と可変の2系統出力端子/マルチパス出力端子など、TX-8800 II は付属機構も充実しています。



TX-8800IIの規格

[FM部]	
回路方式	MOS FET RF段4連バリコン、1F BAND切替付 クォドラチャア検波、パイロット信号 オートキャンセラー内蔵PLL+ダブル バランス、NFB方式 MPX
S/N50dB感度	モノ……………3.5μV, 新IHF16.1dBf ステレオ……………40μV, 新IHF37.2dBf
実用感度	モノ……………1.8μV, 新IHF10.3dBf
S/N	モノ……………79dB ステレオ……………75dB
高調波歪率	モノ……………0.1%(100Hz) 0.15%(100kHz) 0.08%(1kHz) 0.15%(1kHz) 0.1%(10kHz) 0.15%(10kHz) 0.15%(15kHz) ステレオ……………0.15%(100Hz) 0.4%(100Hz) 0.1%(1kHz) 0.4%(1kHz) 0.5%(10kHz) 0.9%(10kHz) 0.8%(15kHz)
キャプチャレシオ	2.0dB
実効選択度	35dB(400kHz) 80dB(400kHz) 60dB(300kHz)
ステレオセパレーション1kHz	45dB
50Hz~15kHz	35dB 30dB
周波数特性	20Hz~10kHz ±0.2dB 20Hz~15kHz ±0.5dB
イメージ妨害比	90dB
IF妨害比	100dB
スプリアス妨害比	90dB
AM抑圧比	55dB
サブキャリア比	72dB
ミュート動作レベル	5μV(19.2dBf)
アンテナ	300Ω 平衡型、75Ω 不平衡型
[AM部]	
回路方式	非同調RF1段2連バリコン
実用感度	バーアンテナ……………300μV/m 外部アンテナ……………15μV
選択度	30dB
S/N	50dB
イメージ妨害比	45dB
IF妨害比	50dB
[出力部]	
レベル/出力インピーダンス	FM(100%変調)……………FIXED 650mV/4.2kΩ VARIABLE 50mV~1.3V/3.6kΩ AM(30%変調)……………FIXED 200mV/4.2kΩ VARIABLE 15mV~400mV/3.6kΩ
[使用半導体]	
FET	3
IC	6
トランジスタ	11
ダイオード他	16
[電源部・その他]	
電源電圧	100V, 50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)	20W
ACアウトレット	1(電源スイッチ非連動)
外形寸法	420(W)×150(H)×392(D)mm
重量	8.0kg

JA-T1 FM専用アンテナ……………¥4,000

FMの音質を大切にした、中・強電界用FM専用アンテナです。位相差給電方式による優れた指向特性。小型で軽量の、取付場所を選ばない2素子アンテナです。●75Ω、300Ω共用。